

Begleiten 110号



会報に関する連絡先
E-mail : info@begleiten.org
TEL : 090-9146-6667
(関根まで)

2019.10.25

【巻頭言】 ケニアを旅して日本のことを考えた

ベグライテン世話人 森永智子

私は9月2～11日、『アーサー・ビナードさんと行くケニア』に参加してきました。アーサー・ビナードさんは、2001年に詩集『釣り上げては』で中原中也賞を受賞し、オバマ前大統領が広島を訪れた際には通訳をされています。ソフィア・コミュニティ・カレッジ2019年度秋期 教養・実務講座「人間らしく生きる」では、12月4日に登壇予定です。9条の会の会員で、広島と東京を行き来し、『ドームがたり』という原爆の絵本も出版されました。私は今、いわゆる“おっかけ”状態です。

私の夢のひとつは、小さいころのTV番組「少年ケニア」「狼少年ケン」「ジャングル大帝」の現地を訪問することでした。その夢がようやくかなったわけです。

◆ケニア最大の貧民街“キベラスラム”

この旅行で、キベラスラムという貧民街を見学しました。ナイロビ市内から車で20分ほどの距離にあります。案内はケニア在住31年の早川千晶さん、ケニア人と結婚され、二人の子どものお母さんです。2000年には『アフリカ日和』という本を出版されています。ベグライテン代表世話人の関根和彦さんも2003年ころにキベラスラムを訪問し、早川千晶さんにお話を伺ったそうです。ケニアには約200のスラムがあり、ナイロビ市内に最も近い「キベラスラム」が最古で最大であり、人口200万人ともいわれています。

キベラスラムの一面にあるゴミ置き場から、フィリピンのゴミの山で暮らす子どもたちが頭に浮かびました。以前、ベグライテンの例会で、映画監督の四ノ宮浩さんをお呼びして、講演と映画『忘れられた子供たち』を鑑賞したことが思い出されました。(ちなみに

ゴミはプラスチックの普及後、急増したそうです。)

ケニアといえば、ナイロビの高層ビル街が思い浮かぶ昨今ですが、ナイロビの歴史は150年にもなりません。ナイロビとはマサイ語で「冷たい水」を意味し、それまでは、遊牧の民マサイが、牛たちに水を飲ませるために立ち寄る場所でした。サバンナ地帯で、町といえるものは何もありませんでした。

1884～1885年、ヨーロッパ列強がアフリカ分割のために開催したベルリン会議で、ケニアはイギリスの植民地となりました。アフリカの地図は、国境に直線が多いのは障地取りをしたためです。1896年に、モンバサから内陸に向けて鉄道の敷設が始まりました。そこで、労働力となったのが、大干ばつで苦しんでいたインド・パキスタンの人々でした。彼らは、1901年にビクトリア湖畔のキムスまで1000kmの線路が完成するまで、命がけで働きました。約1割の人がライオンの犠牲となりました。

ナイロビはモンバサとキムスの中間、モンバサから500kmに位置して、建設拠点として50戸のテントがつけられ、歴史が始まりました。赤道直下とはいえ、高地であるため、冷涼で住みやすい地域でした。植民地政策として、すでにイギリス植民地となっていたエジプトからヌビア人の軍隊が連れて来られました。そして、軍隊が必要なくなると、川沿いの湿地帯にヌビア人たちは捨てられました(早川さんの表現)。この湿地帯がキベラスラムの始まりです。彼らは、土壁と茅葺きの家を建て住み始めました。また、ケニア人たちは第一次世界大戦で、イギリス軍に人間の盾としてかり出され、終戦後にやはりキベラスラムに捨てられたのです。

1920年代に入ると人種隔離政策が始まり、高地には白人、低地には黒人が住むように決められました。キベラスラムは白人居住区に隣接していたため、移住政策がとられました。武器をもたないキベラの人々の抵抗は、ホワイトハイランドといわれる白人居住区から追われた人々、重税に苦しめられた人々などを受け入れ、多くの家々を建てることでした。移住する代わりに家を増やしたので、政府は手がつけられなくなったというわけです。キベラスラムは住人たちの生きるための最後の希望であり、生きることをあきらめない人々が徐々に集まってきて、今でも膨張しているそうです。皆が助け合い、いろいろなかたちで仕事をつくり出し日銭を得て、日々生活しています。政府には何も期待していません。

バブル期に向かう日本に違和感をもった早川さんは、18歳からバックパッカーとなり、世界中を歩き回ったそうです。最終的に出会ったのがキベラスラムでした。「貧しさのどん底で、ぎゅうぎゅう詰めで、でも、活気があった。ひまそうな人はいず、生きるエネルギーに満ちあふれていて、皆が声をかけてくれました」と早川さん。

水道もなく、電気もなく、トイレもない。人々は水売りから水を購入して、家賃を払ってボロボロの長屋に暮らしています。夢は50歳まで長生きすることですが、30代、40代でなくなってしまう人が多いとのこと。

キベラスラムには近年、電気が通り、トタン屋根が隣家と重なるように広がる家々のあいだに、木製の電信柱、錯綜する配線を見かけました。停電が多く、通電されたときに起きる火事が頻発しているそうです。迷路のような、人ひとりがようやく通れるだけの通路では、消火のすべがありません。また、高速道路建設のため、早朝3時、4時にブルドーザーが何台もやってきて、強制執行が行われています。ブルドーザーのせいで茶色の土がむき出しになった、一定の幅で細長く続く空き地が、それを物語っていました。強制執行の通達は来ている、日夜仕事に追われ、転居する資金もない住人たちは何もできず、泣き寝入りです。だが、家を壊された住人を助けるのは、またキベラスラ

ムの人々だそうです。四畳半に10人が暮らすといったことは珍しくありません。

ケニアでは、10年に1回国勢調査が行われます。単なる人数だけでなく、資産調査も兼ねていて、しっかりと税金の徴収に反映されます。政府は、税金は徴収しても、貧困対策などをせずに、キベラスラムはないものとして、撤去することだけを考えているそうです。早川さんが運営にかかわっている“マゴソスクール”も、やがて立ち退かなければならないとのこと。

参加者のひとりが「今の福島は変わらない」とつぶやきました。確かにわが国の現状は、GNP第3位を維持する国として恥ずかしくないでしょうか。

◆寺子屋から“マゴソスクール”へ

早川さんは、マゴソスクールという小中学校を運営しています。マゴソスクールとは、「マシモニ村の行き倒れになった人を助ける孤児のための学校」を意味しています。マゴソスクールは、早川さんの親友リリアンがつくった寺子屋から出発しました。親友は、19歳の時に両親を失いました。18人兄弟の長女で、17人の弟妹(一番下は5歳)の面倒をみることになりました。1980年、1990年代にはAIDSの流行があり、孤児が急増しています。孤児が生きていくためには、屑拾いや物乞い、日本円にすれば20円、30円で体を売る女の子もいるそうです。野草を摘んで食べる子どもたちもいます。わずかばかりのお金を得ても、食物が高価で買えないため、シンナーを購入し、寒さと飢えをしのぐ子も多いと聞きました。食事につられ、ギャングの手先になり銃を持たされ、15、16歳で警官に射殺される男子もいます。警官たちは射殺してもよいことになっています。孤児たちをテロ組織もねらっています。

リリアンは、1日中働き、弟妹だけを養うのも困難なのに、長屋の1室を借りて、孤児たちをひきとりました。「お金がないのは理由にならない。子どもたちに生きる希望を与えたい」と、黒板しかない寺子屋で教育を始めました。「私は“やる”と決めたから、あなたは私を見ていて」とリリアンは早川さんに宣言したそうです。最初は傍らで見守っていた早川さんも、孤児たちを助けたい、支援していこうと決意したそうです。

ケニアには、ハランベエ精神という、お金をだし合う習慣があります。日本でいえば“講”のようなものです。ハランベエに賛同すれば、どんなに貧しい人でも、払えるだけのお金を少額でも誇りをもって寄付しています。少しずつ資金を集めていき、早川さんも学校運営に加わったとのこと。日本で寄付を募れば資金は集まるかもしれないが、ケニアの人々の自主性や努力を重視して、それはしなかったそうです。

生徒は当初 20 人でしたが、現在は 600 人に増えています。また、孤児だけでなく、貧困家庭の子弟なども受け入れ、シングルマザーの駆け込み寺としての役割もしています。シングルマザーには、給食や清掃などの仕事をしてもらい、共同生活をしています。先生



たちは、「自分が孤児だったから」という理由で安い給料で働いてくれています。

マゴソスクールで、私たち旅行者はケニアのランチをご馳走になりました。野菜料理や肉料理、デザートまで、地元の料理が用意されていました。でも、気がひけたことに、生徒たちの給食は豆料理一品だけでした。持参したタッパーに豆料理をよそってもらい、かつ込むように食べ、われ先にと、2 回目、おかわりのために並びます。なかには、1 日の食事はこの給食だけという子や、おかわりした料理を家に持って帰る子どももいるそうです。

空腹から犯罪に走ることはないよう、給食は必須です。1 月 1000 円で、こども 1 人の給食費となるそうです (<http://magoso.jp/> マゴソスクールを支える会 HP より)。

早川さんは、寄付を募ることに最初は抵抗があったそうです。寄付を受けると、人間関係の大切な何かを失うような気がしたからとのこと。この巻頭言を書きながら、9 月例会「ケアに当たる人に求められる人間力」で伺った高木慶子先生のお話が思い出されました。ケアする側・ケアされる側ではなく、人間力をもち、同じ立場で寄り添うことの意義を痛感しました。

【写真：キベラスラム。見渡すかぎり、トタン屋根が密集している】

目次

【巻頭言】ケニアを旅して日本のことを考えた（世話人 森永智子）	1
◆開催のご案内◆（ / ）内：日付	
ベグライテン 11 月例会 憲法改正問題の現在	
－安倍首相・自民党改憲案の内容・問題点と今後の動き－（11/24）	4
ベグライテン 12 月例会 予告（12/15）	5
ケアの哲学セミナー ケアの人間学～いのちを紡ぐ・ひとをつなぐ～（10/26）	5
公共哲学セミナー 共生社会のための公共哲学入門（11/30）	5
憲法カフェ@四ツ谷（第 3 期第 12 回）AI（人工知能）が与える影響は？（10/31）	7
自立アカデミア 第 4 回読書会（11/9）	7
◆応援イベントのご案内◆ソフィア・コミュニティ・カレッジ 2019 年度秋期 教養・実務講座	9
お問い合わせください！！	
◆その他のイベントの開催予定◆	11
◆報告・感想◆	22

◆開催のご案内◆

◇ベグライテン 11 月例会◇

憲法改正問題の現在

—安倍首相・自民党改憲案の内容・ 問題点と今後の動き—

【日時】11月24日(日)14:00~16:30 (開場 13:30)

【講師】清水雅彦 先生 (日本体育大学教授 憲法学)

＊略歴 1966年兵庫県生まれ。札幌学院大学法学部教授などを経て、現在、日本体育大学スポーツマネジメント学部教授。専門は憲法学。研究テーマは平和主義、監視社会論。戦争をさせない1000人委員会事務局長代行、九条の会世話人。

【著書】『治安政策としての「安全・安心まちづくり」』(社会評論社、2007年)、『憲法を変えて「戦争のボタン」を押しますか?』(高文研、2013年)、『9条改憲48の論点』(高文研、2019年)。

◆講師からの一言◆

憲法9条に自衛隊を明記するいわゆる「加憲」論は、ただ条文を追加するだけであったり、単なる現状追認論ではありません。これまであった自衛隊は軍隊ではない、専守防衛に徹する、海外派兵や集団的自衛権の行使はできないという歯止めをなくし、「戦争法」で集団的自衛権も行使可能になった自衛隊を正当化・軍隊化していくためのものです。

今回の改憲論を批判する人たちの中には、国民投票で否決すればいいという意見や「立憲的改憲論」で対抗すべきだという意見もあります。しかし、欠陥だらけの憲法改正手続法の下で国民投票をすべきではありませんし、「立憲的改憲論」は非常に危険です。

そこであらためて憲法研究者の視点から安倍首相・自民党が考える改憲案を考えた上で、改憲に向けてどのような動きがあるのか、

これに対抗するには何が必要なのか、1000人委員会や九条の会に関わってきた立場から考えていきたいと思えます。

【会場】ニコラ・パレ 105 会議室 (JR/地下鉄丸ノ内線・南北線 四ツ谷駅麹町口から徒歩1分)

(駅の階段を登り、麹町口から出て、すぐ左。信号と横断歩道を渡ったところに門扉がある。)

〒102-0085 東京都千代田区六番町14-4

TEL 03-3261-0825

https://www.its-mo.com/detail/DIDX_DKE-1517973/access/

【参加費】1,000円 (学生、障害者・生保者は、500円)

＊終了後、講師を囲んで懇親会を予定しています。

各自が飲食した分を、お支払いいただきます。

＊どなたでも参加できます。

【申込】不要です。

【主催】ベグライテン

HP: <http://begleiten.org/>

FB: <https://ja-jp.facebook.com/begleiten2/>

【問合せ先】関根携帯 TEL 090-9146-6667



◇ベグライテン 12 月例会◇

【日時】12 月 15 日(日) 14:00~16:30

【講師】島菌 進 先生

【会場】未定

【テーマ】即位の儀 関連のお話

(11 月中旬までに、HP、FB に掲載します。)

.....

◇ケアの哲学セミナー◇

ケアの人間学

～いのちを紡ぐ・ひをつなぐ～

『南無』ととなえる仏教そしてキリスト教へ

【日時】10 月 26 日(土) 14:00~16:30

【講師】寺尾 寿芳 先生

(上智大学大学院実践宗教学研究科死生学専攻教授)

*略歴 1961 年生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業、南山大学大学院文学研究科神学専攻博士後期課程修了。博士(文学)、神学・宗教学・人間学専攻。

*近著 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部開学記念論文編集委員会編『癒し——地域包括ケア』(共著)、Christopher Harding、Iwata Fumiaki、Yoshinaga Shin'ichi (eds)、Religion and Psychotherapy in Modern Japan (共著) など。

【講師からのメッセージ】

死生学は宗教的伝統から多くの着想を得てきた。他方で、ことに伝統的な諸宗教は自らの存在意義の説得力ひとつとっても事実上衰退の一途をたどっている。たしかに「社会の近代化に伴い宗教は廃れる」とした世俗化論は総じて肯定できないが、かつては日常生活のただなかで励行されていた宗教的営みの多くはいまやめったに見聞きできなくなっている。そのひとつに念仏があるだろう。しかし顧みれば、日本人の求道性において念仏の伝統が占めてきた地位は決して低くはない。むしろ膨大な(しかしいまや忘れられた…)実りがそこには蓄積されている。この豊かな伝統をなんとか死生学ことにケアの試みという次元で、かつ特定宗派に偏向しないかたちで活性化できないだろう

か。浄土仏教の「南無」の力動性をキリスト教へ導入しようとした井上洋治等キリスト者の事例に触れつつ、宗教横断的にその可能性を探ってみたい。

【会場】上智大学 2 号館 4F 408 教室

(正門から入り、すぐ左側の建物の 4F)

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

(JR 中央線・東京メトロ丸の内線・南北線四ツ谷駅麴町口・赤坂口から 徒歩 5 分)

http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya

【参加費】1000 円(学生、障害者・生保者は 500 円)

*終了後、講師を囲んで懇親会を予定しています。

各自が飲食した分を、お支払いいただきます。

【申込不要】どなたでも参加できます!

【主催】上智大学大学院 実践宗教学研究科

ベグライテン

HP: <http://begleiten.org/>

FB: <https://ja-jp.facebook.com/begleiten2/>

【問合せ先】携帯 TEL 090-9146-6667 (関根まで)

.....

◇公共哲学セミナー◇

共生社会のための公共哲学入門

【日時】11 月 30 日(土) 14:00~16:30

【講師】山脇直司 先生(星槎大学学長)

*略歴 1949 年 3 月 青森県八戸市生まれ 一橋大学経済学部、上智大学大学院哲学研究科を経て、1982 年ミュンヘン大学哲学博士、1986 年 4 月から 1988 年 3 月まで上智大学哲学科准教授、1988 年 4 月から 1993 年 3 月まで東京大学教養学部社会科学科准教授・1993 年 4 月から 2013 年 3 月まで同教授。2013 年 4 月以降、通信制の星槎大学・大学院教授、現在、同学長。東京大学名誉教授、2019 年 3 月まで上智大学非常勤講師

【講師からのメッセージ】

公共哲学は理論的な哲学ではなく、どこまでも「良き公正な社会」実現のための実践的ツールである。他方、最近とみに謳われるようになった共生社会は、公

共哲学的な基礎がなければ戦前の例にみられるような危うさを伴う。このような観点から出発し、教育、福祉、環境、国際、スポーツなどの分野にわたる共生の在り方を、公共哲学的に方向づけてみたいと思う。

*参考文献 山脇直司編 『共生社会の構築のために：教育、福祉、国際社会、スポーツ』（星槎大学出版会、2019年）。

【著書】単著『ヨーロッパ社会思想史』（東京大学出版）、『公共哲学とは何か』（ちくま新書、2004年）、『社会とどうかかわるか』（岩波書店、2008年）、『公共哲学からの応答：3.11の衝撃を受けて』（筑摩選書、2011年）など多数。最近の記事「カトリック社会思想」『社会思想史辞典』丸善2019年所収。

【会場】援助修道会 本部修道院 リヒト宣教室
〒162-0843 新宿区市谷田町 2-24
TEL 03-3269-2405

JR「市ヶ谷駅」 徒歩10分。地下鉄南北線・有楽町線
「市ヶ谷駅」5番出口 徒歩3分

<http://auxijapon.com/access/>

【参加費】自由献金制

*終了後、講師を囲んで懇親会を予定しています。

各自が飲食した分を、お支払いいただきます。

*どなたでも参加できます。事前申込は不要。

【主催】ベグライテン

HP <http://begleiten.org/>

FB <https://ja-jp.facebook.com/begleiten2/>

*私たちは、ケアの哲学と公共哲学を学び、身につければ、一人ひとりが豊かに個性を開き、発展させることができる社会を築くことができると考えています。

【問合せ先】携帯 TEL 090-9146-6667（関根まで）

.....



◇憲法カフェ@四ツ谷◇

(第3期 第12回)

AI(人工知能)が与える影響は？

～労働、そして地球環境～

AI(人工知能)は、私たちの暮らしを豊かにするのか、それとも貧しくするのか？

これもまた、大きな問い掛けだと思います。AIには、その両方の可能性がある。つまり、私たち労働者がストレスに感じているような諸々の作業を代行してくれて、労働生産性が飛躍的に向上し、給料や賃金が大幅に上昇する。そうしたパッピー・シナリオが実現する可能性がある反面、マルクスが予言したものの、幸いにして実現していない「窮乏化法則」が遂に現実のものとなる可能性もあるのです。

そして、もし後者の道をたどった場合には、資本主義ではない社会の可能性も模索しなければならなくなるでしょう。それに、9月23日の気候行動サミット(ニューヨーク国連本部)で、グretaさん(16歳、スウェーデンの環境活動家)が行ったプレゼンテーションもまた、資本主義社会の限界を感じさせるものでした。そこで、今回は、こうした問題について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。



【日時】10月31日(木) 18:30~20:30

【会場】東京法律事務所 1階会議室

【アクセス】JR 四谷駅・四谷口前

(しんみち通り入口横のファミリーマートの隣)

TEL:03-3355-0611

<http://www.tokyo.law.gr.jp/about/location.html>

*左下の地図をご参照ください

【提題者】伊藤 理さん(経済アナリスト)

【司会】関根和彦さん(ベグライテン世話人)

【参加費】1人500円+印刷代(100円程度)

飲み物は各自持参してください。

【連絡/問合せ先】大塩 mail veu03273@nifty.ne.jp

関根 携帯 TEL 090-9146-6667

.....

◇自立アカデミア◇

第4回読書会

【書籍】『ギャンブル大国ニッポン』

岩波ブックレット 862

朝からパチンコ店の前に並ぶ人たちにビックリしたことはありませんか？ ギャンブルは良くないことと言われていますが、日本ではパチンコや競馬・競艇など、さまざまなギャンブルがあふれています。この本では、ギャンブル依存問題を掘り下げ、その背景の社会のあり方を論じています。被災地のパチンコの盛況や横浜のカジノ誘致など現在進んでいる問題も取り上げつつ、国際的にも異様な日本のギャンブル文化を考えてみませんか？

【日時】11月9日(土) 10:45~12:45 (開場 10:40)

【講師】古川美穂(大阪大学大学院人間科学研究科教授社会学・ジェンダー研究者)

◇自立アカデミアとは◇

私たちが生きている現代の社会、世界では、さまざまな複雑な問題が発生しています。簡単に自分の意見や立場を決めにくいと感じる場面は少なくありません。しかし、自分で考えて、意見を表明できるような教養・情報収集力・思考力・基本的な立場を持つことが求められる場面も出てきます。そんな時に何が必要

になるでしょうか？

自立アカデミアは、そんなモヤモヤにどうやって対応していこうか？ と問題意識を持ったメンバーが集まった団体です。

3か月に1回程度の読書会や討論会を行っています。参加者がその時のテーマについて自分なりの見解を育んでいけるような場を作っていきます。参加者一人ひとりが自分で学んだことを大切にしていきます。

読書会や討論会を通して自分の感じたことを口にし、他の方の意見に耳を傾ける経験を通して「自立した」と言える大人になっていければうれしいです。

【参加方法】 直接、読書会や討論会へご参加もしくは

小宮 (alex.603@yahoo.ne.jp) へご連絡ください。会員制となりますが、入会金などは必要ありません。

同じ目標を持った仲間とともに学習を続ける中で、自立した市民の一人になっていきましょう

【会場】 法政大学市ヶ谷キャンパス

外(そと)濠(ぼり)校舎(こうしゃ)4階 S401 教室

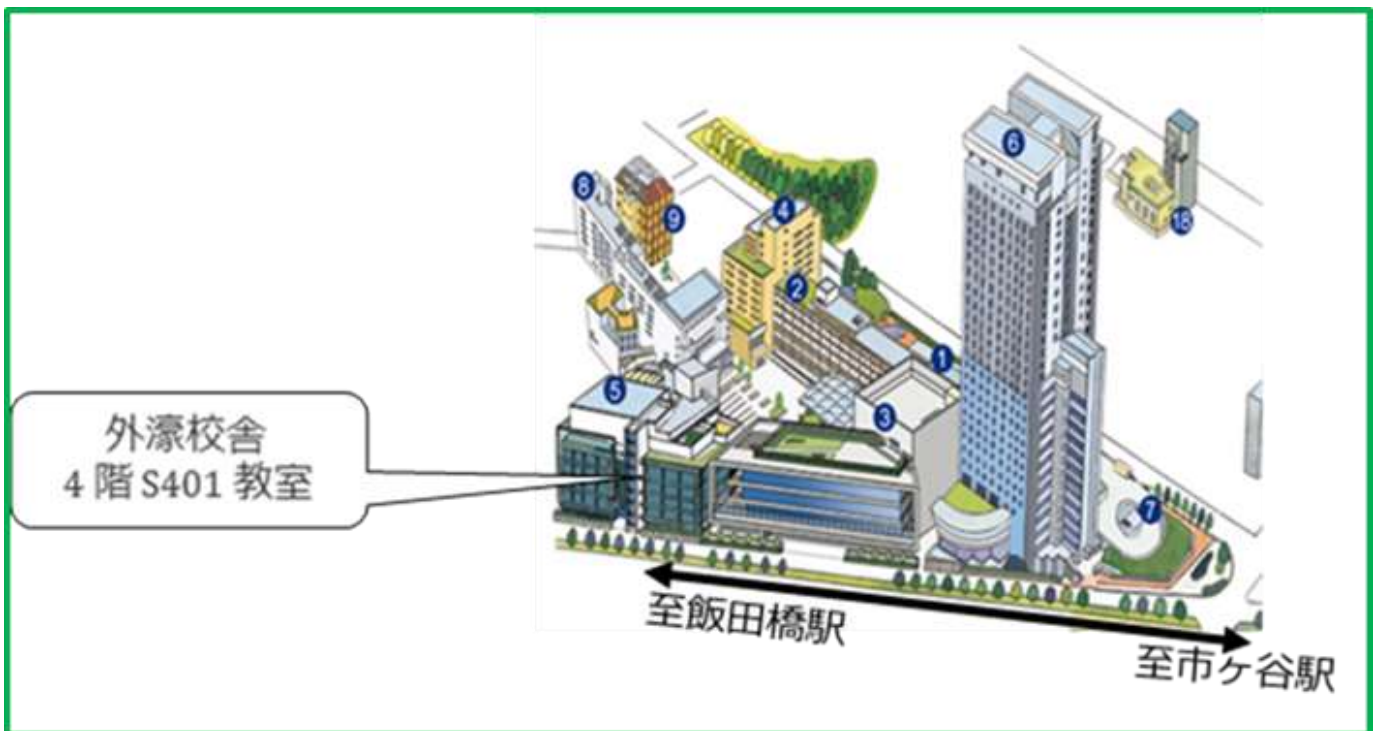
* 下記地図をご参照ください

【参加費】 100 円 (資料代)

【持ち物】 昼食持参 (ランチミーティング形式となります。好きな食べ物をお持ちください)

【主催】 自立アカデミア

【問合せ】 alex.603@yahoo.ne.jp



◆ 応援イベントのご案内 ◆

お問い合わせください!!

ソフィア・コミュニティ・カレッジ

2019 年度秋期 教養・実務講座

<https://www.sophia.ac.jp/jpn/otherprogram>

[s/c_college/](https://www.sophia.ac.jp/jpn/otherprogram/s/c_college/)

2129 人間らしく生きる 1

～流動化・霸道化し始めた世界

安定と平和は取り戻せるのか～

世界はいま、流動化、霸道化の時代に入ってしまったように見えます。欧米では、流入する難民に反発して極右勢力が伸長し、政治・経済・社会が流動化しています。アメリカファーストを唱えるトランプ政権は、イラン、ロシアなどに対し力による恫喝的な振る舞いを一段と強めており、殊に中国とは、覇権争いを象徴する関税紛争が長期化する様相を呈し、世界経済への影響が懸念されています。

こうした情勢の下、北東アジアでは米朝が牽制しあいつながらも、朝鮮半島の非核化を模索する努力が続けられています。ところが政府自民党は、核兵器禁止条約に背を向け F35 などの兵器を大量に買い込んでおり、憲法を改訂して国民の主権を弱め、米国とともに戦争ができる国にしようとしています。

華々しく喧伝されたアベノミクスも大企業と富裕層を潤しただけで、格差はますます拡大しており、一億総活躍社会もその“活躍”は国民一人ひとりの幸せを念頭においたものではありません。待機児童は減らず、保育や教育担当者の待遇改善も進みません。また、ブラックに満ちたパワハラ・セクハラ職場の改善も進んでいません。そもそも、国会議員や官僚の劣化が目をおおわんばかりです。

どうすれば人間の尊厳を回復し、人間らしく生きられる日本社会が実現できるのか? 「今存在しているのとは別の在り方」はないのか? 受講者のみなさまとともに考える機会としたいと思います。

【日時】 指定水曜日 19:10~20:40

(2019 年 10 月上旬~2020 年 1 月中旬) 全 11 回

【会場】 上智大学 四谷キャンパスの教室を使用

【コーディネーター】 大橋容一郎

(上智大学教授 文学部哲学科)

【講師】 11 名による輪講形式、各講師 1 回ずつ

【受講料】 29,700 円 【定員】 70 名

【テキスト】 講師、よりプリント配布☆全回分 500 円

【連絡先】 上智大学公開学習センター

千代田区紀尾井町 7-1 四谷キャンパス 1 号館 1 階

TEL 03-3238-3552 FAX 03-3238-4310

【講師およびテーマ(敬称略)】

10 月 2 日 「市民であるとはどういうことか

(講座趣旨説明含む)」

大橋 容一郎 (上智大学教授、文学部哲学科)

10 月 9 日 「日本外交の在り方を問う」

猿田佐世 (新外交イニシアティブ代表・弁護士

(日本・米 NY 州))

10 月 23 日 「大日本帝国憲法から日本国憲法へ

——憲法 9 条を中心として」

長谷部恭男 (早稲田大学教授)

10 月 30 日 「女性が本当に活躍できる社会へ」

上野千鶴子 (東京大学名誉教授)

11 月 6 日 「緊急事態条項とは何か」

水島朝穂 (早稲田大学法学学術院教授)

11 月 13 日 「反緊縮経済学マップーニューケインジ

アン左派 vs MMT vs 信用創造廃止論」

松尾 匡 (立命館大学経済学部教授)

11 月 20 日 「プログレッシブ (進歩) 連合の可能性」

中野 晃一 (上智大学国際教養学部教授)

12 月 4 日 「広島、福島、そして上関は今」

アーサー・ビナード (詩人・俳人、随筆家、翻訳家)

12 月 11 日 「国家神道の見えない化」

島 蘭 進 (上智大学大学院教授、グリーンケア研究所所長)

1 月 8 日 「グローバリゼーションによる学校の変貌

—平和・民主主義教育の現在—」

佐藤 学 (学習院大学文学部特任教授・

東京大学名誉教授)

1 月 15 日 「民主主義とは何か〜政権とメディア〜」

望月衣塑子 (東京新聞記者)

2128 人権とケア

～身近にある差別や人権侵害に どう向き合えば良いのか～

だれでも、自分が不当に差別され、無視されて、自分の尊厳や人権が脅かされていると感じたことがあるのではないのでしょうか？ そんな時、自分を守るためには知識と、何よりとても勇気と忍耐と努力がいると思ひ知らされたのではありませんか？そして、悩んでいる「私の話」を親身になって聞いてくれる人が、どんなに欲しかったことか…

友人や知人に相談された時も、大変です。その人の気持ちや置かれている状況、その人の生き方や生い立ちの物語に耳を傾けながら、寄り添い、支援しなければならぬからです。

また、私たちは自分では気が付かないうちに、差別や人権侵害の傍観者、加害者になっていることもあるのではないのでしょうか？

今回は、私たちのライフサイクルで出会う様々な差別や人権侵害を取り上げ、当事者として、相談を受けたものとして、また一市民として、どう向き合えば良いのか、何ができるのか…人権とケアにかかわる当事者、有識者のお話を聞き、受講者のみなさまと共に考えてみたいと思います。

【日時】 指定火曜日 19:10～20:40

(2019年10月中旬～2020年1月中旬) 全11回

【会場】 上智大学 四谷キャンパス

【コーディネーター】 原 敬子(上智大学神学部准教授)

【講師】 11名による輪講形式、各講師1回ずつ

【受講料】 29,700円 **【定員】** 80名

【テキスト】 講師よりプリント配布(実費徴収)

☆全回分 500円

【連絡先】 上智大学公開学習センター

千代田区紀尾井町7-1 四谷キャンパス1号館1階

TEL 03-3238-3552 FAX 03-3238-4310

【講師およびテーマ(敬称略)】

10月8日 野田小4年生 虐待死について

杉谷 剛(東京新聞編集局社会部)

10月15日 加害者としての母親及び父親

～虐待者の心理構造～

山脇由貴子(心理カウンセラー、

元東京都児童相談所児童心理司)

10月29日 高橋まつりは、なぜ亡くなったのか

……電通の労働環境の実態

高橋幸美(高橋まつり母、

厚生労働省過労死等防止対策推進協議会委員)

過労死ゼロの社会を

川人 博(弁護士・

過労死弁護団全国連絡会議幹事長)

11月5日 「女子」という呪い

対談 雨宮処凛(作家、社会活動家)・原敬子

11月12日 世界・日本の人権状況

伊藤和子(弁護士、

NPO法人ヒューマンライツ・ナウ事務局長)

11月19日 シングルマザーの貧と困

赤石千衣子(NPO法人しんぐるまざあず・

ふぉーらむ理事長)

12月10日 老人虐待の実態を読み解く

結城康博(淑徳大学総合福祉学部教授)

12月17日 在宅介護における認知症介護現場の課題

～ケアマネの視点から～

塩川隆史(有限会社 ナイスケア)

1月7日 性暴力と修復的司法—対話の先にあるもの

小松原織香(同志社大学嘱託講師)

1月14日 子どもたちに寄り添う

～いじめ、虐待、少年非行の現場から～

坪井節子(弁護士、社会福祉法人カリヨン 子

どもセンター理事)

1月21日 小講演と対談

・やまゆり苑の事件に見られる差別思想の広がり

島藺 進(上智大学グリーンケア研究所所長)

・講座を振り返って 対談 島藺 進・原 敬子

.....

◆その他のイベントの開催予定◆

◇生と死を考える会◇

死別体験者の分かち合いの会

大切な人を亡くした方が集い、率直に気持ちを分かち合う場です。生と死を考える会発足のときから、休みなく続いています。テーマや指導者を設けず、話したい方、聞きたい方、それぞれ自由にご参加ください。

【日時】毎月

第1土曜日 14:00～17:00

(自死により大切な人を亡くした方の集まりです)

第2金曜日 14:00～17:00

(主としてお子さんを亡くされた方の集まりです)

第3火曜日 18:30～20:30

(さまざまな体験の方の集まりです)

第3土曜日 17:00～19:00

(20代から30代の世代の集まりです)

第4土曜日 14:00～17:00

(さまざまな体験の方の集まりです)

【会場】 生と死を考える会

<http://www.seitosi.org>

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台1-8-11

東京YWCA会館2階214号室

TEL 03-5577-3935 FAX 03-5577-3934

【参加費】 一般 1000円 会員 500円

【備考】 予約は必要ありませんが、開始時間には遅れないようにお越しください。

◇第6回「99%のための 経済政策フォーラム」学習会◇

<http://bit.ly/2m5E3Eg>

「社会保障財源を生み、格差を是正し、消費と景気を拡大する、公正・公平な税制とは？」

岡田俊明（税理士、元特別国税調査官、元全国税労働組合委員長、元青山学院大学大学院 招聘教授）

【日時】10月24日 15:00～17:30

【会場】衆議院第二議員会館 第一会議室（予定）

【問合先】「99%のための経済政策フォーラム」

Mail ren99forum@yahoo.co.jp

【その他】入館証配布 14:30 開始

◇ウィズ新宿とのパートナーシップ講座◇

『法の世界』から見た女性の生き方、働き方

https://www.city.shinjuku.lg.jp/kusei/danjo01_002235.html

【講師】朝倉むつ子先生（早稲田大学名誉教授）

女性にとって、日本国憲法・女性差別撤廃条約・男女共同参画社会基本法などが果たした役割は重要です。これらの法に定められた原則を駆使して、闘われてきた裁判をふりかえり、戦後女性たちが切り拓いてきたものは何か学び、『性差別大国』といわれる日本社会に、私たちはどう対応したらよいのか、考え語り合しましょう。

【日時】10月26日（土） 14:00～16:00

【会場】若松地域センター2階 第一集会室

東京都新宿区若松町12-6

<http://wakamatsuchiiki.sakura.ne.jp/facilities.html>

【申込】9月27日（金）より、電話かFAXで男女共同参画推進センターへ。

TEL 03-3341-0801（平日 8:30～17:00）

FAX 03-3341-0740

【参加費】無料

【問合先】新宿女性九条の会 TEL 03-3369-7750 末吉

◇第10回 ACT 全国研修会◇
多様なアウトリーチの時代へ向けて
～これからも大切にしたいこと～

<http://assertivecommunitytreatment.jp/2019/>

【日時】10月27日(日) 10:00～16:30(9:30 開場)

※30分ほど延長することがあります。

【会場】東洋大学白山キャンパス

(東京都文京区白山 5-28-20)

<http://www.toyo.ac.jp/nyushi/about/campus/hakusan/access.html>

【プログラム】

○第一部 10:00～12:00 (8号館地下1階 8B11 教室)

鼎談「ボクらの時代」を振り返る

～大切にしてきたこと、これからも大切にしたいこと～

出演者：伊藤順一郎(メンタルヘルス診療所しほふあーれ)、三品桂子(花園大学)、高木俊介(たかぎクリニック)

12:00～12:30 法人化のお知らせ

12:30～13:30 お昼休憩

○第二部 13:30～16:30

(1号館2階 1203 教室、1204 教室)

シンポジウム①

地域でのクライシスにどう対応するか

コーディネーター：西尾雅明(東北福祉大学せんだんホスピタル)

シンポジウム②

社会的包摂とアウトリーチ(仮題)

コーディネーター：金井浩一(相談支援事業所しほふあーれ)

なお、前日の19時から、前夜祭としての「懇親会」が同じキャンパス内にあります。

「日曜日の本番では聞けない“裏”鼎談」が、企画されております。

【申込】

<http://assertivecommunitytreatment.jp/2019/>

(一般会員としての登録をしていただけますと、自動的に来年度の新組織への加入をしていただけます)

.....

◇映画を見て考えるパラムの会◇

映画上映「沖縄から叫ぶ戦争の時代」 &
小西誠さん講演「自衛隊の南西シフト」

<http://www.labornetjp.org/EventItem/1568971404188matuzawa>

安倍政権が長引き、憲法九条は脅かされています。南西諸島に、なぜ、何のために自衛隊が基地を作るのか。他国を敵視し、戦争をあおり、巨額資金が投入される。私たちは、声をあげましょう。

【日時】10月27日(日) 13:30～

13:45 DVD 上映 ドキュメンタリー映画

「沖縄から叫ぶ戦争の時代」

14:55 講演「自衛隊の南西シフト」

小西誠さん(軍事ジャーナリスト)

16:25 お話：島々スタンディング

宮前真知子さん・石井信久さん

【会場】エル・ソフィア 3階 第2学習室

東京都足立区梅田 7-33-1

東武スカイツリーライン「梅島駅」下車

(出口は1つ) 徒歩3分

<https://tinyurl.com/y46sdh5s>

【申込】1000円 学生以下500円

【問合先】映画を見て考えるパラムの会

TEL 080-9389-2525

.....

◇反貧困ネットワーク◇

国会議員との対話集会
～どうする日本の貧困問題～

私たち反貧困ネットワークは、わが国で広がる貧困問題を可視化・顕在化させることにより、貧困問題を社会的・政治的に解決し、人間らしい生活と労働の保障を実現させるために、2007年10月1日に、貧困問題に取り組む多様な市民団体、労働組合、法律家、学者、諸個人が集まり結成されたネットワークです。

この間、非正規雇用の拡大、所得と貯蓄の減少、貧困率の悪化、格差の拡大、相次ぐ餓死・自殺事件、派遣切りの嵐、生活保護バッシング、生活保護・年金の引下げ等の社会保障の削減などが続き、生きづらさは増すばかりです。

10月4日より、臨時国会が開会されています。7月下旬に、参議院選挙がありました。国政選挙が行われるたびに「何を重視して投票するか」というマスコミの世論調査では、毎回「景気と雇用」「社会保障と福祉」が上位を占めました。生きづらさに直面している当事者の暮らしは追い詰められています。10月1日からの消費税増税、憲法第25条の保障する生存権を保障する制度内容など後退する一方です。

わが国で最大の社会問題となっている貧困格差問題の解消するための各政党・会派の総合的・体系的な政策ビジョンを市民と共有し、政策実現を共にすすめていくために、このたび「国会議員との対話集会どうする日本の貧困問題」を開催することとしました。

【日時】10月29日(火)17:00~19:30 (16:30開場)

【会場】衆議院第二議員会館第1会議室(100名規模)

◆プログラム

①各政党国会議員からの、「どうする貧困格差」に関する政策報告 各10分 計1時間

②「反貧困ネットワークからのコメントと私たちからの政策提言」宇都宮健児(反貧困ネットワーク代表世話人)

◆参加者との討論 —テーマ別討議— 1時間20分

・社会保障(生活保護・生活困窮者自立支援)・税制(消費税10%問題・公正な税制改革)

・居住福祉(公的住宅・住宅補助・住宅確保要配慮者対策・住宅セーフティーネット法)

・労働(最低賃金・非正規労働と正規化・外国人労働者)

・若者、奨学金・子どもの貧困・母子世帯・障がい者への「合理的配慮」と権利保障

・DV・マイノリティ・被災者・その他

【主催】反貧困ネットワーク

<http://antipoverty-network.org/>

【問合せ】反貧困ネットワーク 事務局長 瀬戸大作

メール setodaisaku7@gmail.com TEL 090-1437-3502

.....

◇芸術と憲法を考える連続講座◇

第21回特別シンポジウム

『表現の不自由展・その後』中止事件を考える

<https://www.peace-geidai.com/>

2019年夏、あいちトリエンナーレで起きた「表現の不自由展・その後」中止事件は、政治家による文化事業への介入、文化庁の補助金打ち切りなど、芸術表現の自由をめぐる日本の社会はついにここまで来てしまったのかと、様々に深刻な問題を投げかけながら、今なお事態は日々刻々と動き続けています。最前線にかかわってきた展示関係者や専門家、藝大生もまじえたシンポジウムで、市民・芸術家のみなさんとともに考えます。

【日時】10月30日(水)18:30~21:00 (開場18:00)

【会場】東京藝術大学上野キャンパス音楽学部

5号館1階109教室 (台東区上野公園12-8)

【パネリスト】

大浦信行：「表現の不自由展」出品作家、アーティスト、映画監督

嶋田美子：「表現の不自由展」出品作家、アーティスト、フェミニスト、1960~70年代オルタナティブ文化研究

岡本有佳：「表現の不自由展」実行委員

川島素晴：作曲家、国立音楽大学准教授

山田健太：専修大学ジャーナリズム学科教授・学科長、日本ペンクラブ専務理事、情報公開クリアリングハウス理事

権祥海：東京藝大大学院国際芸術創造研究科博士課程在学中(2018~)

武居利史：府中市美術館学芸員

【申込】 申込不要。入場無料

※藝大生と一般市民のための講座です。

【問合せ先】 kenpou.geidai@gmail.com (川嶋)

【主催】 東京藝術大学音楽学部楽理科

自由と平和のための東京藝術大学有志の会

【後援】 日本ペンクラブ主催

.....

◇第16回南原繁シンポジウム◇

今、南原繁を読むー生誕130年に寄せてー

<http://nanbara.sakura.ne.jp/>

【日時】11月2日(土) 13:00~17:20 (12:15開場)

【プログラム】

○第1部

基調講演 I

南原繁『国家と宗教』を読みなおす
ー〈世界の危機〉の現在と向き合うためにー
東京大学名誉教授 板垣雄三

基調講演 II

南原繁・無教会・国家神道
東京大学名誉教授 島菌 進

○第2部 パネルディスカッション

【会場】学士会館 202号室

(東京都千代田区神田錦町 3-28)

TEL 03-3292-5936

【参加費】1000円、(学生)500円

【申込】要申込 HPから

【主催】南原繁研究会

(代表 樋野興夫 順天堂大学名誉教授)

【後援】岩波書店、学士会、東京大学出版会、
公共哲学ネットワーク

◇グリーンサポート 世田谷◇

連続講座「映像でみるグリーン」

<http://sapoko.org/>

上映作品 『聴こえてる、ふりをしただけ』

(2012・99分・監督：今泉かおり)

不慮の事故で母親を亡くした、11歳の少女・サチが
主人公。

【日時】11月2日(土) 14:00~17:00 (開場 13:30)

【トークゲスト】今泉かおりさん(映画監督・看護師)

【会場】世田谷文化生活情報センター「生活工房」
(キャロットタワー) 5F セミナールーム AB

(世田谷区太子堂 4-1-1)

東急田園都市線「三軒茶屋」駅から徒歩5分

【定員】70人(当日参加可・満席時は事前申込者優先)

【参加費】1000円(パソコン文字通訳・手話通訳つき、
保育は要申込) *介助者は参加費無料

【申込・問合せ】Mail griefsetagaya@yahoo.co.jp

◇東京私大教連◇

40周年記念シンポジウム

第42回首都圏私大研究集会

【日時】11月2日(土) 14:30~17:00 受付 14:00

【会場】明治大学 駿河台キャンパス

グローバルフロント2階4021教室

【内容】

①問題提起 東京私大教連中央執行委員会

②講演 前川喜平さん(現代教育行政研究会代表)

「日本の大学政策ー過去・現在・未来ー」(仮)

【資料代】500円

【問合せ】東京私大教連 TEL 03-3208-8071

FAX 03-3208-0430 メール tsk@tfpu.or.jp

【主催】東京私大教連・東京高等教育研究所

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2523

第1桂城ビル TEL 03-3208-8071

◇プロジェクト8◇

健康で文化的な最低限の生活

まともな働き口はどこに？

日本だけ賃金が下がってるってホント？

<http://www.labornet.jp.org/EventItem/1569245989947matuzawa>

「人間らしく生きる」という私たちの権利を、若い
人たちとともに再確認するために企画しました。

働く若者が直面する劣悪な労働環境問題の解決へ
の道を探ります。

【講師】上西充子さん(法政大学教授)

【日時】11月2日(土) 19:00~21:00

【会場】八王子労政会館 ホール
〒192-0046 東京都八王子市明神町3丁目5-1
<http://japan-welnet.net/pc/map.html>

【参加費】500円 学生無料

【問合せ】プロジェクト8 TEL 070-5567-0168
E-mail manabi.tsunagu@gmail.com

◇安倍改憲発議阻止！
辺野古新基地建設やめろ！
東北アジアに平和と友好！11・3
憲法集会 in 国会正門前◇

<http://sogakari.com/?p=4282>

【日時】11月3日(日) 14:00~15:30

【会場】国会議事堂正門前

【共催】戦争させない・9条壊すな！

総がかり行動実行委員会

安倍9条改憲NO! 全国市民アクション

3・1 朝鮮独立運動100周年キャンペーン

【問合せ】総がかり行動実行委員会

◇芸術と憲法を考える連続講座◇

第22回 研究の現場から
芸大教員とともに「芸術」と「社会」の関係を考える

<https://www.peace-geidai.com/>

福中冬子「バーンスタインと赤狩り」

毛利嘉孝「資本主義の『終焉』と新たなコミュニズム/社会主義の時代？ー新しい文化芸術の実践とコービン、サンダース、あるいは『れいわ新選組』の時代??」

表現の自由と芸術の自律が担保されている(はず)の戦後西側諸国において、芸術と社会はどのような関係にあるのでしょうか？

本講義では毛利嘉孝(国際芸術創造研究科)と福中冬子(音楽研究科音楽学)の二人が、それぞれの専門領域(社会学・文化批評、近現代音楽史研究)におけ

る事例を通じて、西側社会における芸術のアクチュアリティを考えます。

【日時】11月7日(木) 18:30~21:00(開場 18:00)

【会場】東京藝術大学上野キャンパス音楽学部
5号館1階109教室 (台東区上野公園12-8)

【申込】申込不要。入場無料

※藝大生と一般市民のための講座です。

【問合せ】kenpou.geidai@gmail.com(川嶋)

【主催】東京藝術大学音楽学部楽理科

自由と平和のための東京藝術大学有志の会

【後援】日本ペンクラブ主催

◇つながりあえる社会へ
排外主義を乗り越えるために◇

<https://xa0007.blogspot.com/2019/09/peace8.html>

【講師】前川喜平さん

「右向け、右！」——ただよってくるキナ臭さ、息苦しい“忖度”社会。

人どうしの信頼を断ち切って分断する、「自己責任」や「反日」といったコワモテの言葉が、いま、あちこちで聞かれます。

隣人への憎しみをあおる政治にダメ出しする反骨の元官僚・前川喜平さんをお呼びして、私たちのつながりあいを回復するための道順を考えます。

【日時】11月8日(金) 19:00~

【会場】八王子労政会館 ホール

〒192-0046 東京都八王子市明神町3丁目5-1

<http://japan-welnet.net/pc/map.html>

【参加費】500円(資料代)

【問合せ】八王子平和市民連絡会

peace8_owner@yahoo.co.jp

◇朝日カルチャーセンター新宿教室◇

ハーバース哲学の全体像
その軌跡、意義、問題点を探る

<https://www.asahiculture.jp/course/shinjuku/eb094bab-f7c1-1ae4-8304-5d2c26201700>

【講師】山脇直司（東京大学名誉教授）

今年 90 歳を迎えたドイツの社会哲学者ハーバースの業績は多岐にわたっており、その全体像の把握は容易ではない。

本講義では、その全体像を初期、中期、後期に分けてとらえ直し、彼が仕掛けた数々の論争（VS ガダマー、ルーマン、シュペーマン、ヘンリッヒ、歴史修正主義者、ポストモダニスト、ロールズ、テイラー等々）も考慮しながら、その意義と問題点を探っていきたい。（講師・記）

【日時】金曜日 19:00～20:30（全3回）

*単発でも申し込みできます。事務局へのご相談ください。

・終了・10月11日 第1回 フランクフルト学派第二世代の批判理論から、真理合意説に基づく規範理論へ

・11月8日 第2回 コミュニケーション的行為理論・討議倫理学と、未完の近代論・ポスト形而上学論

・12月13日 第3回 政治哲学への重心移動、宗教論、ヨーロッパ憲法設立の夢

【受講料】（税込） 会員 9900円 一般 11880円

<参考文献>ご希望の方は各自でご参照ください。

山脇直司『社会思想史を学ぶ』ちくま新書、第4章

【会場】教室は変わる場合があります。10階と11階の変更もあります。当日の案内表示をご確認ください。

*講座終了後に山脇先生を交えての簡単な懇親会も予定されています

◇世田谷・九条の会 14周年◇

講演のつどい

安倍政権とメディア

～忖度・不自由・嫌韓でほんとうにいいの？

<http://www.labornet.jp.org/EventItem/1567846391210matuzawa>

【講演】永田浩三さん（社会学者・ジャーナリスト）

【日時】11月9日 13:30～

【会場】成城ホール 4階C・D会議室

東京都世田谷区成城 6-2-1

<https://www.setagaya.co.jp/kuminkaikan/seijohal1/access.html>

【参加費】未定

【問合先】世田谷・九条の会 事務局

〒154-0017 東京都世田谷区世田谷 1-11-16

世田谷民主商工会気付

TEL 03-6413-9547 FAX 03-6413-9548

Mail setagaya-9jou@kzh.biglobe.ne.jp

◇子供たちに伝えよう平和を！ 「紙芝居」で！◇

<http://www.labornet.jp.org/EventItem/1569246910210matuzawa>

・お母さん！お父さん！もちろん子どものみなさんも大歓迎です！

・いま、子どもたちに平和を伝えていくのは、わたしたち戦争未体験者の大切な役割ではないでしょうか。

平和を伝える悩みや教訓など、みんなで考え、話し合いましょう。

・紙芝居「ちっちゃいこえ」（アーサー・ビナード）、
「そして、トンキーもしんだ」の上演や互いの体験などのトーク etc.

・上演とお話:はるさんのお話し会

【日時】11月9日（土）13:30～15:00

【会場】八王子労政会館 サークル室

〒192-0046 東京都八王子市明神町 3 丁目 5-1

<http://japan-welnet.net/pc/map.html>

【参加費】 一家族 500 円 (資料代等)

【主催】 ちっちゃいこえ 9 条連上映会

【連絡先】 TEL 090-9642-5687

Mail titlityaimaruki@yahoo.co.jp

.....

◇真生会館講座◇

10 月以降

【受講料】 各回 1000 円、学生は無料

【申込・問合せ】 一般財団法人真生会館

〒160-0016 東京都新宿区信濃町 33 番地 4

TEL : 03-3351-7121 FAX : 03-3358-9700

E-mail:gakushu@catholic-shinseikaikan.or.jp

<http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp>

I. 現代人の生き方、社会を考える

現代社会に「いのち」の意味を求めて

【日時】 土曜日 13:30~15:30

11 月 9 日、11 月 16 日、11 月 30 日、12 月 7 日

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでも私のもとに
来なさい。休ませてあげよう。

私は柔和で謙遜な者だから、私の轡を負い、私に学
びなさい。……」(マタイ 11:28、29)

現代社会では、多くの人々が大きな声、強い主張に
踊らされ流されたりして、職場や学校、家庭でも生き
辛さを感じています。一見、平穏無事の日常生活の中
で、他者に無関心になって孤立したり孤独にさいなま
れていないでしょうか。効率重視のもとで貧しさのた
めに虐げられたり、学ぶチャンスを失っている子ども
たち、身体的、知的 ハンディキャップによって、働
く場所や居場所を得られない人達、介護離職する人達
などが、社会の周辺に追いやられてしまい孤独死も増
加しています。人々の悲しみや苦しみに光を見出すた
めに、を考え企画しました。

心の病と向き合う

【日時】 土曜日 10:30~12:00

11 月 16 日、11 月 30 日、12 月 14 日

人と人との関係が織りなすなかで、息苦しくなつた
り、力が出ない等心身ともに不調を感じることがあり
ます。どのように考え、対処していったらよいのでし
ょうか?

II. キリスト教の光に人間の生き方を求めて

自分を愛し、自分へと生きる

~互いの命を活かし合う関係性作り~

【日時】 金曜日 13:30~15:00

11 月 15 日、12 月 13 日

「人間関係」は難しいと悩んだり、より気持ち良
く!と様々です。人は個々に感じ方・考え方が異なる
別々の人格であり、尊い固有の存在ですから、この相
違は当たり前のことなのです。

この講座は、その違いを踏まえて、神によって祝福
されている命を、互いに活かしかえるように理論と実
践を通して学び身につける参加型講座です。前期か
らの続きです。

命へのまなざし

【日時】 11 月 8 日 金曜日 13:30~15:00

生命操作の時代において生命倫理が問われている。
命の扱い方に関する難しい決定に直面する時、私たち
はどのような死生観に照らされて考えているのでし
ょうか? 創造の霊(聖霊)を信じる立場から、命に
対する創造的な扱い方を見出していきたい。二つの視
点に立って生命倫理の問題を考えたい。

1. 人間学で学ぶ「有限な自由と責任」を行使。

2. 聖書で学ぶ「聖霊に息吹と良心の導き」に頼る。

<『いのちへのまなざし【増補新版】』第三章、生と
死をめぐる諸問題—終末期医療>を参考にしながら
具体的な例として、1) 介護、2) 延命などのケース
スタディ

Ⅲ. キリスト教文化、教養（音楽・読書・話し方……）

映画に学ぶ

【日時】土曜日 10:00～13:00

10月26日、12月7日

<老いを迎える。老いを生きる。老いの彼方の光を見つめる。>

10/26 パーソナル ソング（2014年、アメリカ）

12/7 幸せな時間（2013年、ドキュメンタリー）

◇浅川地下壕壕内見学会◇

<https://xa0007.blogspot.com/2019/09/peace8.html>

1

八王子市内に残る戦争遺跡・浅川地下壕の壕内見学会です。

浅川地下壕は、戦争末期、飛行機のエンジンを作る工場として使われた大規模な地下トンネルです。

参加には、事前申し込みが必要です。

【日時】11月10日（日）13:30～

【会場】浅川地下壕

〒193-0844 東京都八王子市高尾町

<http://asakawatikagou.web.fc2.com/basho.html>

【申込】sptf2z99@ion.ocn.ne.jp のアドレスへ、メールでお願いします。

【参加費】400円

【問合せ先】浅川地下壕の保存をすすめる会

<http://asakawatikagou.web.fc2.com/>

TEL 042-664-8615（齊藤）

◇11.17 高校生・学生・市民のつどい◇

核兵器と戦争のない未来を
—高校生、学生、市民のつどい—

【日時】11月17日（日）13時30分開始

【場所】全国教育文化会館エデュカス東京7階
大会議室 東京都千代田区二番町12-1
地下鉄麴町駅徒歩2分

【内容】

*ピースアニメ「つるにのって」上映

*「サダコの想いを歌声に込めて」

佐々木祐滋さん（シンガーソングライター、被爆二世）

*ミニ学習「核兵器禁止条約の発効をめざして」

*発言と交流（高校生、学生、若い先生、被爆者など）

【参加費】大人500円※学生・高校生以下は無料

【主催】11.17 高校生・学生・市民のつどい

実行委員会

事務局団体：世界の子どもの平和像東京の会・
東京高校生平和ゼミナール

【連絡先】メール BRB14073@nifty.com（近森）

TEL 090-8818-4342/090-4819-2932（沖村）

◇東京多摩いのちの電話◇

公開講演会「もしも死にたいと言われたら」

<https://www.tamainochi.com/index.asp>

【講師】松本俊彦先生（精神科医）

*手話通訳あり

【日時】11月17日（日）14:00～16:00（開場13:30）

【会場】三鷹産業プラザ7階ホール

【参加費】1000円

【申込】事前申込が必要です。参加費を送金

郵便振替 00100-7-168778

「特定非営利活動法人東京多摩いのちの電話」

入金確認後入場券送付（先着220名）

【問合せ先】TEL 042-328-4441（月～金 10:00～17:00）

◇映画上映会「沖縄スパイ戦史」◇

<https://xa0007.blogspot.com/2019/09/peace8.html>

戦後70年以上語られなかった陸軍中野学校の「秘密戦」。

民間人20万人余りが死亡した沖縄戦は、1945年6月23日までが「表の戦争」なら、北部では、ゲリラ戦やスパイ戦など「裏の戦争」が続いていた。

沖縄戦の闇に切り込み、絶対にこの島を再び戦場にさせない思いで、映画はつくられた。

過去と地続きの今の時代だからこそ、改めて戦争を問う。

【日時】11月17日 14:00~16:00

【会場】クリエイトホール 11階 視聴覚室

〒192-0082 東京都八王子市東町 5-6

<http://aa-kkse.net/create.htm>

【参加費】1000円（前売り 800円）

【問合せ先】八王子手をつなぐ女性の会

TEL 090-6147-1257 Mail info@marute.net

◇暮らしのグリーンサポートみなと◇

2019年度連続講座

「支援者のグリーンについて」

グリーンと言えば死別のイメージがあるかと思いますが。今回の講師は、あまり知られていないグリーン、グリーンサポートを実践されている方です。

【日時】11月17日（日）14:00~16:00

【講師】秋山正子さん（マギーズ東京代表）

日本の訪問看護師、有限会社ケアーズ・白十字訪問看護ステーション代表取締役所長、特定非営利活動法人白十字在宅ボランティアの会理事長、新宿区介護サービス事業者協議会副会長、東京女子医科大学非常勤講師。異名は「市谷のマザー・テレサ」。

【会場】港区芝公園協働スペース 3階

<https://www.city.minato.tokyo.jp/shisetsu/kyoudou/space03.html>

【参加費】1000円

【定員】50人

【申込】griefminato@gmail.com

氏名、連絡先、メールアドレスをお知らせください

◇映画上映&トーク◇

水はだれのもの？ 水道民営化のゆくえ

<https://xa0007.blogspot.com/2019/09/peace8.html>

生命をつなぐ水。

公共財であるはずの水道が民営化に向かっている。

DVD『どうする？ 日本の水道』（38分）と『最後の一滴～ヨーロッパの隠された水戦争』（59分）の2本のドキュメンタリーの上映の間に、地方の水道事情やPFIに詳しく著書もある八王子合同法律事務所の弁護士・尾林芳匡さんのお話をうかがう。

【日時】11月22日 14:00~17:00

【会場】アミダステーション 1階

〒192-0082 東京都八王子市東町 3-4

<https://tinyurl.com/y3hrlamy>

【参加費】前売・予約 1000円 当日 1200円

【問合せ先】八王子市東町 3-4 アミダステーション 気付

Mail manabi.tsunagu@gmail.com

TEL 070-5567-0168 FAX 042-642-5922

◇すぎなみ 2019 「憲法の夕べ」◇

「日米同盟のさらなる強化……自衛隊の今」

<http://www.labornet.jp.org/EventItem/1567846462141matuzawa>

日本政府と米軍の関係は？ わたしたちの生活に影響がでるの？

【講師】半田滋さん（東京新聞論説兼編集委員）

【日時】11月22日（金）18:50~20:45

【会場】セッション杉並（TEL 03-3317-6611）

東京都杉並区梅里 1-22-32

http://www6.plala.or.jp/saito_music/sesion_suginami_info.html

【参加費】前売券 700円、当日券 900円

大学生・障がい者 500円 高校生以下無料

【問合せ先】2019 杉並憲法の夕べ実行委員会

九条の会 東京連絡会

〒101-0051 東京都文京区湯島 1-12-5 小安ビル 6F

TEL 03-5812-4495 FAX 03-5812-4496

Email mail9jotokyo@iris.ocn.ne.jp

◇芸術と憲法を考える連続講座◇

第23回 やさしい視線・静かな怒り 詩人・四國五郎が伝えたかったこと

<https://www.peace-geidai.com/>

「戦争の記憶」を伝えることを自らの使命と課し、「平和のために」絵と詩を描く人生を生涯貫いた詩人・四國五郎。戦争とシベリア抑留、そして最愛の弟の被爆死を体験し、平和のための芸術活動に人生を捧げた四國五郎の「表現」と「生き様」を通して、今、私たちは戦争の記憶をどのように継承し、未来に伝えていくべきなのか。息子の視点から考えてみたいと思います。

【講師】四國 光（四國五郎長男）

【日時】11月27日（水）18:30～21:00（開場 18:00）

【会場】東京藝術大学上野キャンパス音楽学部
5号館1階109教室（台東区上野公園12-8）

【申込】申込不要。入場無料

※藝大生と一般市民のための講座です。

【問合せ先】kenpou.geidai@gmail.com（川嶋）

【主催】東京藝術大学音楽学部楽理科

自由と平和のための東京藝術大学有志の会

【後援】日本ペンクラブ主催

◇市民連合◇

第7回全国市民意見交換会

市民連合は、市民と野党の共闘の深化と衆院選に向けた戦略の構築を目指すため下記の日程で「第7回全国市民意見交換会」を開催いたします。

完全事前予約制とさせていただきますので、ご参加をいただける場合は、お手数ですが、下記の連絡先まで団体名、参加者氏名、参加人数をご連絡いただけますよう、お願いいたします。また質問票への回答もお願いします。

なお、地域で活動されている他の団体の方にお声掛

けいただくことは歓迎いたしますが、なお、会場の都合上、参加人数は各団体より2名までとさせていただきます。それを超える場合は、その旨あわせてご相談いただけますようお願い申し上げます。

またご欠席の場合でも質問票にお答えお願いいたします。

みなさまのご参加をお待ちいたしております。

【日時】11月30日（土）10:30～16:30（開場 10:00）

【会場】日本教育会館 7F707号室

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2丁目6-2

【概要】

第1部 挨拶

講演 参議院選挙総括と衆院選の展望

第2部 意見交換会

第3部 終わりの挨拶

【申込・問合せ】 shiminrengo@gmail.com

◇全国女性シェルターネット◇

第22回全国シェルターシンポジウム2019

Wait No More

～世界基準に沿った日本のDV・性暴力対策を～

【日時】12月8日（日）10:00～16:00

【会場】東洋学園大学フェニックスホール

【主催】NPO 法人全国女性シェルターネット

【後援】内閣府、厚生労働省、外務省

（平成31年度東京ウィメンズプラザ配偶者暴力防止等民間活動助成事業）

【プログラム】

10時～12時 シンポジウム

「第4回世界女性シェルター会議報告」

13時30分～15時 パネルディスカッション

「セクシュアル&リプロダクティブ・ヘルス&ライツを私たちのものに！」

15時～16時 議員フォーラム

「世界基準に沿った日本のDV・性暴力対策をつくるために」

【参加費】事前振込 1,800円 当日支払 2,500円

※事前の申込は必須です

特別料金（事前振込のみ） 1,000 円

※経済的に厳しい状況に置かれている方にもご参加いただくための特別料金です。学生、障害をお持ちの方、暴力被害等による影響で就労が困難な方など、ぜひご利用ください。なお、事前振込のみで受付をしております。当日は他参加者とまったく同じ参加証にて、同じようにシンポジウムをお楽しみいただけます
【申込】事前申込み必須です。

<https://forms.gle/QLFcvyybE4Z4dypK9>

参加費のお支払いについては事前振込か当日支払かを選べます。当日支払は現金のみとします。

【キャンセルポリシー】

11月26日（火）まで：返金のための振込手数料のみご負担ください。

11月27日（水）以降：参加料の全額をお支払いいただきます。キャンセルの場合は必ず、下記にご連絡ください。 symposium2019tokyo@nwsnet.or.jp

当日、無断で欠席された方も参加料全額をお支払いいただきます。交通事情による欠席、遅刻の場合も全額請求させていただきます。

【問合せ先】NPO 法人全国女性シェルターネット

第22回全国シェルターシンポジウム2019in 東京事務局 symposium2019tokyo@nwsnet.or.jp

◇芸術と憲法を考える連続講座◇

第24回 私たちは歌で戦争を支えた —民衆の自己表現、戦時歌謡—

<https://www.peace-geidai.com/>

1927年の『山東出兵』に始まる日本の「18年戦争」は、文学・芸術・思想など文化諸領域の自由を徹底的に奪いました。しかし、その戦時下はまた、「国民」が澁刺として声を上げ、自らを表現した時代でもあったのです。

その時代が生んだ歌謡曲（流行歌）をご一緒に聴きながら、そこに顔をのぞかせる私たち自身の姿を通して、戦争と反戦・自由を考え直してみましよう。

【講師】池田浩士（1940年生まれ。京都大学、京都精華大学に在職後、現在は自由業）

【日時】12月11日（水）18:30～21:00（開場 18:00）

【会場】東京藝術大学上野キャンパス音楽学部
5号館1階109教室（台東区上野公園12-8）

【申込】申込不要。入場無料

※藝大生と一般市民のための講座です。

【問合せ先】kenpou.geidai@gmail.com（川嶋）

【主催】東京藝術大学音楽学部楽理科

自由と平和のための東京藝術大学有志の会

【後援】日本ペンクラブ主催

◆報告・感想◆

◇ベグライテン 9 月例会◇

ケアに当たる人に求められる人間力

【日時】 9 月 28 日 (土) 14:00~16:30

【参加者】 45 人

【講師】 高木慶子先生

(上智大学グリーフケア研究所 特任所長)

***略歴** 熊本市生まれ。高木仙右衛門の曾孫。聖心女子大学文学部心理学科卒業、上智大学神学部大学院修士課程修了。2004 年「高木仙右衛門に関する研究「覚書」の分析を中心にして」で博士(宗教文化)。上智大学グリーフケア研究所特任所長。「生と死を考える会全国協議会」会長。「兵庫・生と死を考える会」会長。

***近著** 『大切な人をなくすということ』(PHP 研究所 2011)、『悲しみは、きっと乗り越えられる グリーフケアの第一人者が贈る“小さな希望”の見つけ方』(大和出版 2012)、『〈悲嘆〉と向き合い、ケアする社会をめざして JR 西日本福知山線事故遺族の手記とグリーフケア』上智大学グリーフケア研究所、柳田邦男共編著(平凡社 2013)、『それでも人は生かされている 悲しみを乗り越えて勇気が生まれるとき』(PHP 研究所 2014)、『それでも誰かが支えてくれる 心が晴れる愛と癒やしの言葉』(大和書房 2015)

【会場】 上智大学 2 号館 4F 408 教室

「ケアをするなんて、考えてはいけません」で始まった高木慶子先生のお話は、ベグライテン(Begleiten)の意味する『苦しんでいる人のそばにいる』という基本精神にまさに関連していて、母と同居する私にとっては自身の見直しを迫られました。配布資料を中心にして、ご講演の概要を示します。

高木先生は 34 年間にわたり、阪神淡路大震災、JR 福知山線脱線事故、東日本大震災、熊本地震などの被災者、遺族の方々を訪問してこられました。「ケアをするために行くのではなく、人と人との交わりのため、家族や家、地域、仕事を喪失した人々、複数のものを

なくされた方々が待っているのです、お目にかかりに行くのよ」と、高木先生は表現されました。阪神淡路大震災では、ご自身も被災されています。高木先生のグリーフケアの対象は、近しい人と死別した人々だけに限らず、喪失感をもつ人々全体を想定されているようです。ターミナルケアでは、これまで 300 人以上の人に寄り添って、お話をうかがってきたそうです。

講演のタイトルは「ケアに当たる人に求められる人間力」でしたが、内容は、ケアに限らず、家族、同僚、他の人々と関わる際のこころのあり様についてでした。他の人々がどのような状態であれ、こころのあり様として 1) 相手に対する尊敬、2) 信頼関係、3) 思いやりの 3 つが重要となります。

神奈川県障害者施設「やまゆり園」で 3 年前に悲惨な事件が起きました。高木先生は毎年、訪問されているそうです。この加害者に対しても同様に、こころのあり様、尊敬、信頼、思いやりをもって接しているとのことでした。

コリント人への手紙に、「親しい仲にも礼儀あり」というフレーズがあります。高木先生は、礼儀とは他の人々に対する尊敬の姿であると強調されました。

『こころのあり様は、謙虚さ。「おおいなるもの」の前に頭(こうべ)をたれることは、すべての人に対して、頭(こうべ)をたれるこころのあり様。』と資料に書かれていました。大いなるものとして、高木先生は、神、仏、如来、大自然などを挙げられました。

WHO(世界保健機関)は、健康の定義には、身体的健康、精神的健康、社会的健康のほか、スピリチュアリティが含まれると提案していますが、まだ提言にとどまっています。一方、高木先生は、身体の中に、“知性”、“感性”、“スピリチュアリティ 霊性(魂)”の 3 つが存在しているので、それぞれの動きに気付き、それらを安心して受け入れる日常生活でありたいと言われました。

資料を引用します。

『スピリチュアリティ 霊性(魂)は、WHO ではスピリチュアリティという表現になっているが、ギリシャ哲学者のソクラテスは「魂の世話」という言葉を使い、日本においても長い時代、「魂の世話」という

表現で、なんの抵抗もなく使っていた。その魂は人間の心よりももっと深く奥にあって、それを良心とも呼んでいる分野である』。たとえば、

『ある出来事にあつて、「心の底では、赦し、受け入れていても、感情においては、それを赦し受け入れられない……」などと思うことがあるが、その心の底にあるものを、霊性(魂)と呼ぶのではないかと考える』。

ここで卑近な例が紹介されました。子どもの結婚に対する両親の反対です。頭ではわかっている、ところが受け入れられない、知性も感性も「冗談じゃない」と思ってしまう。このときに心の底にあるもの、結婚を認める気持ちが霊性(魂)ではないかといわれました。魂を、「真我」あるいは「利他の心」、「良心」とも言い換えられました。そして、参考文献として稲盛和夫氏の書いた『心。』を紹介してくださいました。

最後に、高木先生は、他の人々と協力していくためには、次の5つの要素(順不同)に基づく人間力が重要になるとされました。①すべての人に対して持つ尊敬と信頼、②大いなるものとすべての人に対する謙虚な心、③逆境にあつてもゆるがない感情コントロール力(怒る、すねる、嫌がるなどの気持ちを制する力)、④高い理想に基づく倫理観、⑤確固たる信念に基づいた判断力(社会生活のなかでの優先順位の重視など)。

この人間力を鍛えるためには努力が必要で、他人と協力していくために、毎日の生活のなかで、自分の人間力を発揮していきましょうと述べられました。

高木先生は、修道生活60年間で、感情を爆発させたことはないそうです。それはとてもつらいことで、『だから、祈ります』とのこと。

こころのあり様とは、言い換えれば、どのようなこころで1日を生活したいのか、ということ。何か特別なことではなく、毎日の生活の中にしかケアは存在しません。人々と交わる、寄り添うには相互的な力である「人間力」が必要だということです。

「親しい仲にも礼儀あり」

高木先生は、次のような宿題を出されました。

「たいへん失礼なことをする人に、祝福があるようにと、皆さまは祈れますか？」 (文 森永智子)
.....

◇施設訪問 見学会◇

聖路加国際病院緩和ケア病棟

【日時】9月21日(土) 14:00~16:30

【場所】聖路加国際病院

<http://hospital.luke.ac.jp/>

〒104-8560 中央区明石町9-1

【参加者】12人

スピリチュアルケアを含め、最も整った終末医療を行っている病院のひとつであるとされている聖路加国際病院。同病院のチャプレン ケビン・シーバー先生および上田憲明先生のご厚意により、訪問が実現しました。以下、病院HPからの抜粋です。

緩和ケア病棟：がんを主とした、病気そのものを治すことが困難な状況にある患者さんと家族のための入院施設。患者さんの痛みや苦しみ、悩みをできるだけ和らげ、少しでも患者さんらしい日々を送ることができるよう支援しています。患者さんだけでなく、その家族や患者さんの大切な方々もケアの対象となります。

がん治療や、患者さんの負担になるような処置・検査は基本的に行いません(内服あるいは点滴による抗がん剤治療中の患者さんは入棟できません)。症状緩和のための治療・点滴・輸血等は適宜行いますが、単なる延命のための治療は行いません(昇圧剤、心臓マッサージ、人工呼吸、心拍監視モニターなどは使用しません)。

医療スタッフ：緩和医療専門の主治医、担当医、ナースマネジャー、アシスタントナースマネジャー、看護師、看護補助者、薬剤師、ボランティアが中心となり、必要に応じて精神科医、心療内科医、精神ケアの専門看護師、チャプレン(牧師)、ソーシャルワーカー、音楽療法士、栄養士、理学療法士、訪問看護師などがチームとなって、患者さんと家族を支援しています。

施設の概要：病室は全23床で、有差額個室が10床、無差額室が13床(シャワー・トイレ付個室が6床、トイレ付個室が1床、シャワー・トイレ共用準個室が6

床)。その他の設備として、エレベータバス、談話室、患者さん用キッチン、面談室、家族控え室（有料）、洗髪コーナー、音楽療法室などがあります。

＜参加者の感想～アンケートから一順不同～＞

★なかなか見学できない所のうえ、上田先生と専任の看護師さんから貴重なお話を伺い、とても参考になりました。今まさに末期の家族をかかえておりますが、家族へのケアを忘れていたことに気がつきました。できることをやっつけていこうと思います。本当にありがとうございました。(TY)

★日ごろ、病院を訪れる機会はほとんどありませんが、こちらに伺い、人間だれもが通過する終末期の貴重なお話を拝聴でき、ありがとうございました。このような落ち着いた環境でケアを受けられる場があることに、安心感を覚えました。これから、このような場がもっと必要になってくることと思います。

死を目前にした人にとってスピリチュアルペインやニーズは人それぞれで、短い期間でそのケアを行っていくチャプレンさんやケアチームの皆さまのご苦労は簡単には想像のつかないことだと感じます。(JT)

★伝統ある病院の見学をさせていただき、ありがとうございました。貴重なお話を聞かせていただき、率直な質問にも高野さんから丁寧に答えていただき、大変勉強になりました。

心優しき人々に囲まれて、終末期を過ごせる方々は幸せだと思いました。また、残された家族へのケアにまで、心を配っていることに感動いたしました。ありがとうございました。(NT)

★今年、父がガンでしばらく入院したことから緩和ケアに関心を持ちました。日ごろから会話のない父で、入院中も黙ったまま痛みを耐えている様子に、こちらは何をしたらよいかわからない時が多かったのですが、上田さんのお話で「何もできない者としてそばに居る」というお話に、そういう者の存在が大切なんだとほっといたしました。また、高野さんからは病棟がどう機能しているかや、患者さんやご家族とどういう心がけで接しているか伺い、医療者としての細やかなまなざしとプロとして最善を尽くす姿勢が感じられ

ました。温かいご説明と貴重なお時間をいただき、感謝いたします。(CM)

★日野原先生はじめ、いろいろな方々（ボランティア）の支えがあって、この病院のケアが成り立っていることがわかりました。他の病院での現状は業務に追われ、多職種のカンファレンスが行えていない日々です。音楽療法やアロマなど、行うことで患者さまにより良いケアができて、うらやましいと感じました。49日ごろにお手紙を出されること、とても良いと思います。(KS)

★一度訪問したいと長く願っていましたが、上田先生や高野さんのご説明と見学を心より感謝いたします。この場にいることが一番勉強になります。このような場があり、チームで関わって取り組んでおられることを実感しました。一般の者でも地域でも何かできるか、考えてゆきたいと思いました。(AU)

★見学だけでなく、ケアについてもお話を伺えたので、よかったです。また、実際の病棟ケア担当の方の話、考え方を聞く機会はないので、参考になりました。ボランティアやスタッフについてのケアも考慮されていることも勉強になりました。良い機会になりました。ありがとうございました。(TA) (文 森永智子)

.....

★★★編集後記★★★

今号では、巻頭言を書かせていただきました。何が言いたいのか不明だとの意見もいただきましたが、たまには読み物もいかがでしょうか。

次号は、マサイについて書きます。昨年の米国旅行で添乗してくれた日本女性が、なんとマサイの戦士の第二夫人でした。マサイの村で2泊してきました。自然とともに生きるマサイは、自給自足（ごっこ？）をしたい私にとってはあこがれです。

毎号繰り返していますが、会報の編集・制作は、受領原稿を会報形式にまとめるだけです。例会や施設訪問の参加者の皆さま、報告や感想をお寄せください。世話人をはじめ、参加者・読者の皆さまのご協力がないと、会報の継続は困難です。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

(文 森永智子)